

## やっぱりお米はおいしい

気仙沼市立大島小学校 6年 小野寺 秀美

私は、夏休みに扁桃腺が大きくなってしまったため、仙台病院で、手術をしました。口が思うように開かなくなり、手術当日は、朝からずっと水もごはんも食べれませんでした。手術が終わった夜にやっと水が飲めて、次の日の朝からごはんの形が見えないほどすりつぶされた流動食というものが出ました。最初見た時は、(こんなものを食べるのかな)と心の中でおどろきました。私はおかゆなどやわらかくしたごはんは苦手で、あまり食べませんでした。手術後の痛みもあり、食べるのを迷っていると、お母さんから、

「少しずつ食べないと点滴がはずれないよ」と言われ、おそろおそろスプーンで一口食べてみました。飲みこんだ時は、痛みが強く残してしまいましたが、お母さんは

「がんばって食べれたね」とほめてくれました。

次の日から、食前に飲む痛み止めの薬も効いてきて、少しずつ食べれるようになりました。三日後には、お米の形や食感が分かる五分粥になりました。砂糖と違う優しいミルクのようなお米の甘みや米粒一つ一つの食感がとてもおいしく感じさせてくれました。それから毎日、やわらかい豆腐やかぼちゃなどのおかずと一緒に、残さないで食べれるようになりました。

手術をしてから一週間後には、退院することができました。退院した日の帰りに、小泉のおじいちゃん、おばあちゃんの家に行きました。

おじいちゃんとおばあちゃんは、私の顔を見て、とても安心した様で「よく、がんばったね」

とほめてくれました。帰る時に、おばあちゃんが作った野菜、おじいちゃんが作ったお米をたくさんもらいました。おじいちゃんは、津波の影響で田んぼを一度あきらめていました。それでもまたお米を作

りたいという気持ちが強くなり、再開したのです。おじいちゃんから「秀美、じいちゃんが作った米、おいしいからたくさん食べて、早く元気になれよ」

と話してくれたことがうれしかったです。家でおじいちゃんのお米を食べると、足が不自由なおじいちゃんが、震災後のがれきでいっぱいだった田んぼをきれいにして作ったこのことを自然と思い出し、すごくおいしいなと思いました。おじいちゃんおばあちゃんに向けて「ありがとう」と小さい声でつぶやいていました。

毎日何気なく食べているごはんの味を、今まではあまり感じることはありませんでした。しかし、ごはんが食べれないという経験をしてから、ほかほかの温かいごはんが食べれることがこんなにも幸せなことだと感じました。おじいちゃんが作ったお米も、改めておいしいということがよく分かりました。